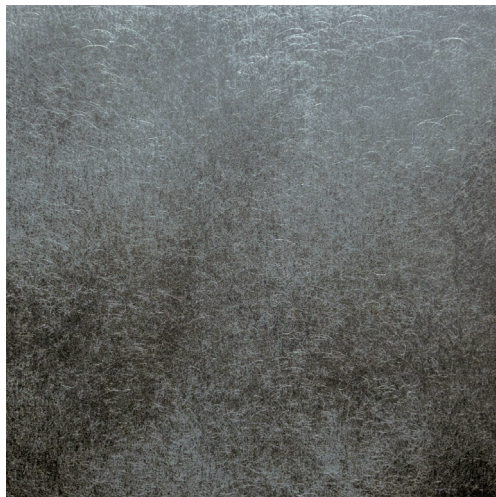


建築用金属内外装材の製作・工事業、フロント（本社・東京都新宿区、社長・松川博行氏）は、溶融亜鉛―アルミニウム―マグネシウム合金めっき鋼板（高耐食性めっき鋼板）の表面に対し、研磨の濃淡によって金属ならではの質感とグレートーンを生み出す仕上げ技術「CRAFT N」をラインアップに加えた。

「CRAFT N」は、これまで人気の特注仕様を規格化したもので、金属本来の表情にこだわり、水墨画のような味わい深い模様が特長。めっき層への塗装と研磨の強弱を調整することで、グレーの中に豊かな階調を表現する。金属の自然な風合いを生かしつつ、複雑な研磨によって奥行きや深みを出すなど

建築用金属内外装材の「フロント」

高耐食性めっき鋼板のグレートーン研磨仕上げ特注仕様を規格化



研磨の強弱で金属の質感を生み出す

し、特殊技法で狙い通り「CRAFT N」のグレートーンを鋼板表に類似した仕上げの二つ面に浮かび上がらせる。である、溶融亜鉛めっき

リン酸処理のよつに、鋼材が薄くて熱に耐えきれず変形してしまつことがなく、1・6ミリの板厚にも適用できる。同処理の冷却過程で亜鉛が結晶となつて模様（スパングル）が生じる場合があるのに対し、新技術では丁寧な職人の手作業を通じて「唯一無二の表情を磨き上げる」（同社）

「CRAFT N」は、昨年春に特許を取得し、耐候性鋼で培ってきた独自の研磨手法を駆使した仕上げ技術「FRONT CRAFT（フロントクラフト）」シリーズの一環。先行製品「ZFC」の性能と品質をそのまま継承しており、高耐食性めっき鋼板を通じて、屋外環境で充分な耐候性を長期にわたって維持できるという。

「CRAFT N」をめぐっては、「二つの表情に個性を刻む」（同社）の導入が想定される。フロントはこのほど、



水墨画のような味わい深い模様が特長

工場から出荷前に錆（さび）を熟成させる耐候性鋼の仕上げ技術「RUSTY R」を確立。創業から半世紀近く普及に努めてきた耐候性鋼を起点に、一連の「フロントクラフトシリーズ」

